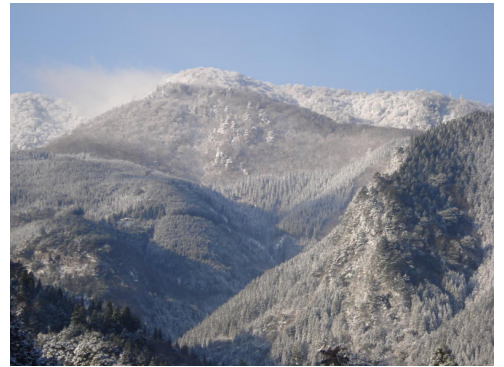
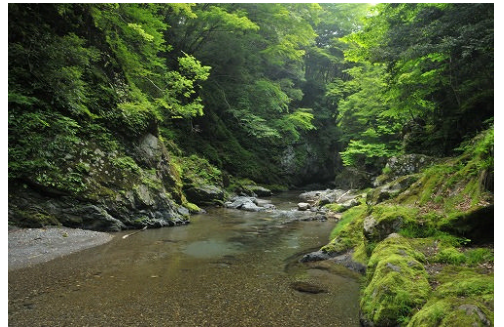


熊山（五家荘）発見のきっかけ？

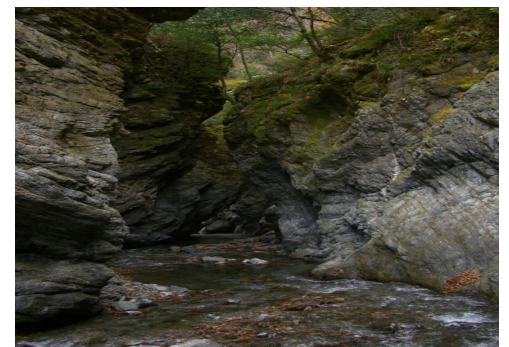
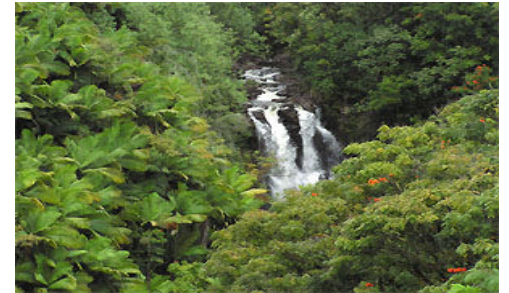
平家の落人は、源氏の追っ手から逃れるため、当時は熊山と呼ばれたようにとても人が住めるとは思えないくらい山の奥の奥の白鳥山山頂に逃げ込みひっそりと隠れ住んでいました。時が経ち、左坐氏が住み着いてから434年、平清経たちが住み着いてから146年が経った頃には熊山に住んでいる人達がかなり増え続け、見つかってしまう心配が出てきました。



その頃、この地を治めていた殿様の菊池肥後守武重（きくちひごのもりたけしげ）は、毎年1・2回ほど板木にある黒木家に泊まって、この地域を見て回っていたのですが、ある日、近くのもう一つの川で魚釣りをしていた時、目の前に川上から一つの木の椀が流れてきました。「さて、不思議なことじゃ、だれかが使い古したようなご飯椀が流れてきたが、この川上にだれか人が住んでいるということか？さっそく熊山を調べさせることにしよう。」と殿様は考え、帰ってからすぐにそのことを家老・宇土十郎に伝えました。ところが十郎は「殿様、今年の春にこの場所を見て回りましたが板木より上に人が住めるような所はありません。たぶん、猿どもがお椀を盗んで山に持ち帰り、それが大雨で流されてきたのでしょう。」といますが、殿様は頭を横に振って「いや、八岐の大蛇（やまたのおろち）のようなこともあるから、明日は熊山を調べることにする。」と伝えました。次の日、殿様は、鹿狩りという名目で熊山の探検に出かけようとしたところ、不思議なことに突然、病気にかかってしまったのです。そのため、熊山探検は中止になってしまいました。そこで殿様は、板木に住む男を案内役にして役人十人に熊山を調べるように命令をしました。役人達は、板木から5



里（20キロ）も山奥まできましたが、そこは昼でもジャングルのように木々が生い茂り真っ暗です。とうとうどっちの方からきたかさえ分からなくなってしまったので引き返してきたことを殿様に伝えました。そこで殿様は、とても頭の良い佐々木源内という家来に熊山狩りをするように命令しました。源内は、すぐ板木に住む炭焼きを仕事にしている村人全員を呼び出し、「おまえ達は、毎日、炭にする材料の木を山に取りに行くのだから熊山の奥のことを知らないか」と尋ねました。しかし「私どもは、おっしゃるとおり山々の木を取りには行きますが、この先5里までで、その先は全く知りません。」という返事しか返ってきません。そこで源内は、「ならば、役人二人を案内してその先の熊山を調べてきてくれ。」と命令し、嘉助・郷助・藤八たちは役人二人を連れて熊山深く入ることになりました。そそり立つ岩そして木の根や枝をつかまえながら何度も死ぬような思いをして六里（24キロ）の所までやっとのことで来ました。ところが、これより先は進むような道もなく川を渡ろうにも橋もなく、川の流れは弓矢のように速く、岩石に砕ける水の音は雷のように轟く様子に全員が怯えてしまいました。その上、身も心もへとへとのためついに諦めて引き返しました。5人はその様子を源内に報告すると、源内が「ご苦勞であった。しかし、川向こうには人家らしきところは見あたらなかったのか。」と尋ねると、3人は「遙か向こうをじっと見ましたら、雲なのか煙なのかはつきり分かりませんが、人が住んでいるようにも思えましたけど、確かではありません。」という応えに源内は「それこそ人家に間違いなし。」と聞いて、すぐにそのことを殿様に報告をしたのです。報告を聞いた殿様は、



熊山に人が住んでいるという思いを強くして、すぐ領内のあちらこちらに「落人やそれらしき者を見たときにはすぐに知らせること、褒美を与える。」というおふれを出しました。すると、五月七日になって板木の商人である重助が、「じつは大きな袋を背負い、顔を隠しながら朝早く熊山に向かって出かけ夜遅く帰ってくる男がいます。これを毎日のように繰り返しますから不思議でなりません。」と役所に申し出てきました。役人は「それこそ、熊山に人里があるに決まったようなものだ。よく教えてくれた褒美を与える。」とって大変喜びました。すると、そのことを噂で聞いた小川村庄屋の太郎助も役所にやってきて「私の仕事に関係のある者で塩売り勘兵衛という者がおります。この頃、大きな倉庫を建てるなど金持ちの暮らしをしています。どんな商売をしてあんなに金持ちになったのか分かりませんが、塩売り以外の商売はしていないので不思議だという噂をみんながしています。昨年、役所のお金が無くなったということを知りましたが、もしかしたら勘兵衛ではないでしょうか。」と申し出ました。役人は、小さな声で「その塩売り勘兵衛を連れてきてくれ、他にも聞きたいことがあるからな。」と命令をしたのでした。

お話はこれからも続きますが、このあと、いったいどうなるのでしょうか、今日のお話は、ここまでです。みなさん、とうとう落人が隠れ住んでいる熊山といわれていた五家荘は、役人に見つかってしまうのでしょうか？そして塩売り勘兵衛は、五家荘と何か関係があるのでしょうか？この続きは、次の「塩売り勘兵衛」ではっきりします。お楽しみに？

